

平成28年度上半期
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
業務実績概要(速報値)

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供

ア 三つの重点医療の提供体制の充実

○血管病医療

- ・経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)施設認定の取得(7月)
- ・昨年度施設基準を取得した植込型補助人工心臓治療(VAD)を施行(7月)
- ・胸部ステントグラフト内挿術(TEVAR)の複数指導医体制を整備

○高齢者がん医療

- ・医師体制の強化・最新機器による内視鏡治療の充実
- ・大腸がんに加えて、胃がん・前立腺がんについても「がん診療連携協力病院」に認定(4月)
- ・がん相談支援センターの本格運用(4月)

○認知症医療

- ・一部病棟において、認知症ケア加算の算定を開始
- ・認知症支援推進センターとして都内全域の医療・介護従事者に対する研修会等の実施

イ 急性期医療の取組(入退院支援の強化)

- ・東京都CCUネットワーク加盟施設、急性大動脈スーパーネットワークの緊急大動脈支援病院として重症患者を積極的に受入
- ・退院支援加算を取得(6月)し、入院早期の患者・家族との面談、多職種によるカンファレンス等による適切な退院支援を実施
- ・病状が安定した入院患者の在宅復帰に向けた医療や支援を行う地域包括ケア病棟の設置準備

ウ 救急医療の充実

- ・断らない救急体制の推進のため当直体制検討委員会を開催
- ・救急隊や地域の医療機関との意見交換を通じた救急体制の充実
- ・診療委員会救急部会において救急患者の受入れに関する問題点の検討等を行い、積極的な救急患者の獲得を推進

エ 地域連携の推進

- ・医療機関への訪問や連携医優先の外来予約枠の確保等を通じたセンター独自の連携医制度の推進
※ 連携医数:718連携医/669医療機関
- ・地域医療連携システムの運用によるWEBを通じた連携医からの検査、診察予約の受け入れ開始
- ・地域連携クリニカルパスを活用した医療連携体制の強化
- ・公開CPC、公開講座の開催による顔の見える医療連携の推進

オ 安心かつ信頼できる質の高い医療の提供

○より質の高い医療の提供

- ・病院機能評価受審の準備を通じた各種マニュアルや規程類等の見直し
- ・高齢者特有の疾患に対応した専門外来の診療推進(もの忘れ外来、骨粗鬆症外来、フレイル外来等)
- ・病棟薬剤師常駐による安全・安心な薬剤管理と服薬指導の徹底

○医療安全対策の徹底

- ・e-ラーニングを活用した院内感染対策講演会参加率向上
- ・感染対策チーム(ICT)による定期的な院内ラウンドの実施
- ・リスクマネジメント推進会議や安全管理委員会におけるインシデント・アクシデントレポートの集約・分析

カ 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

- ・職員による外来案内の実施
- ・セカンドオピニオンに関する患者の権利についての院内掲示等を通じた周知の強化
- ・各病棟に在宅医療相談室の相談案内の掲示を実施
- ・ご意見箱に寄せられた療養環境等の要望に対する改善

28年度上半期実績
(速報値)
(27年度上半期)

病床利用率

86.7%
(86.1%)

1日あたり入院患者数

477.0人
(473.3人)

1日あたり外来患者数

794.6人
(771.9人)

平均在院日数/一般病棟

12.6日/11.9日
(12.8日/12.1日)

診療単価(入院)

54,770円
(54,152円)

診療単価(外来)

11,319円
(10,965円)



病院部門 診療実績月次推移(速報値)

表1

入院患者数と入院単価の推移

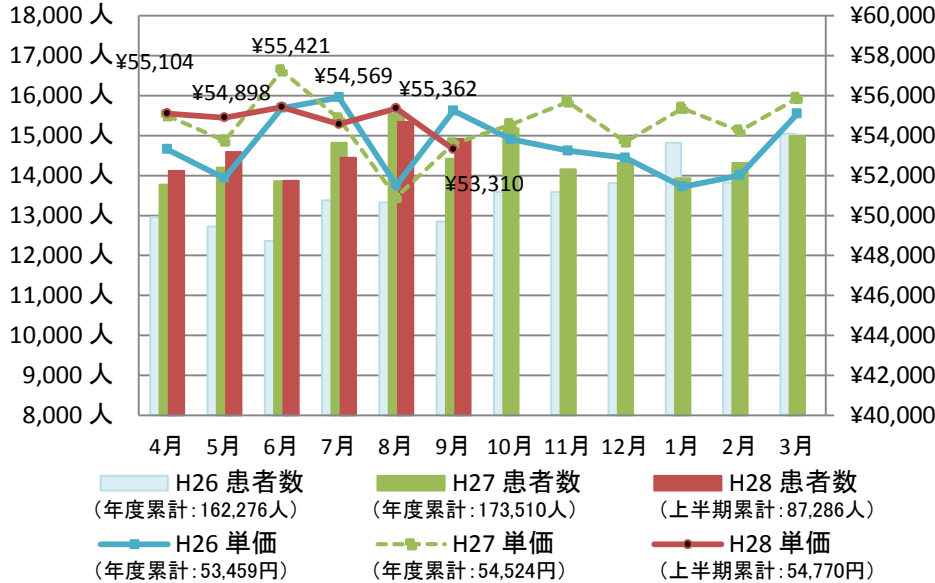


表2

外来患者数と外来単価の推移

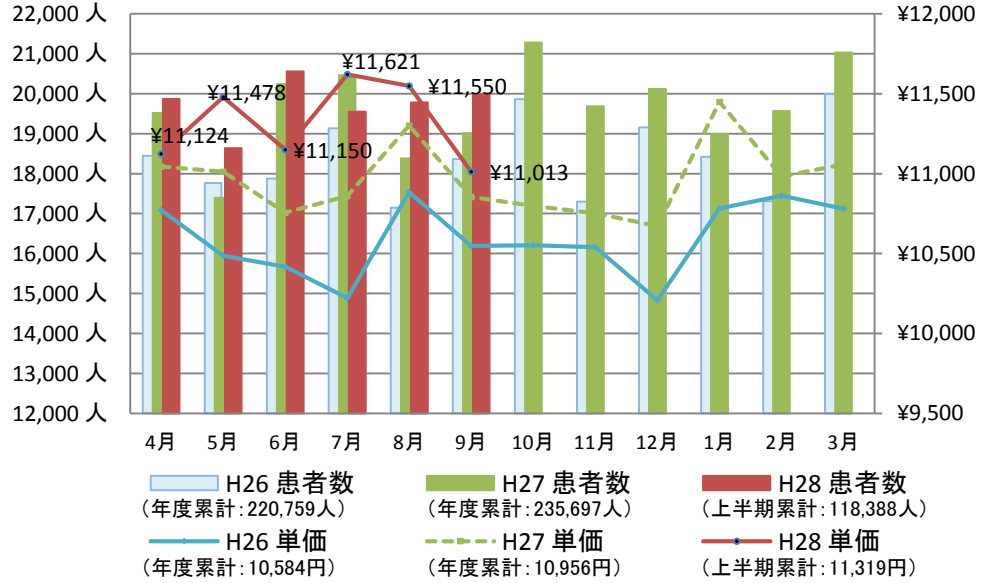


表3

病床利用率の推移

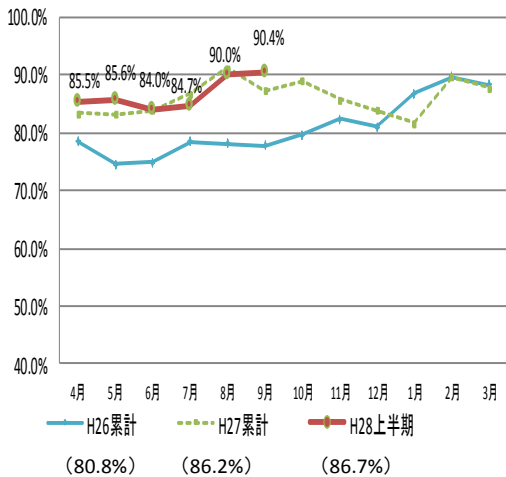


表4

平均在院日数の推移 ※病院全体

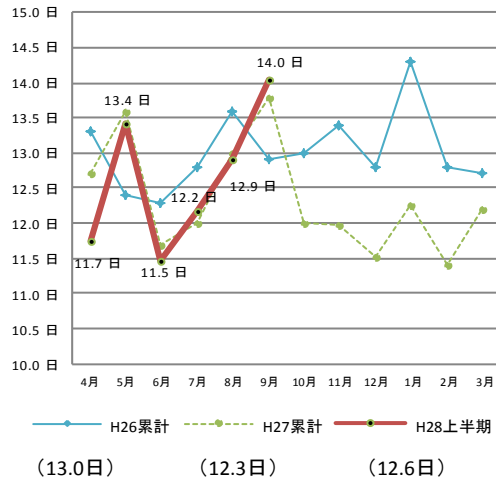
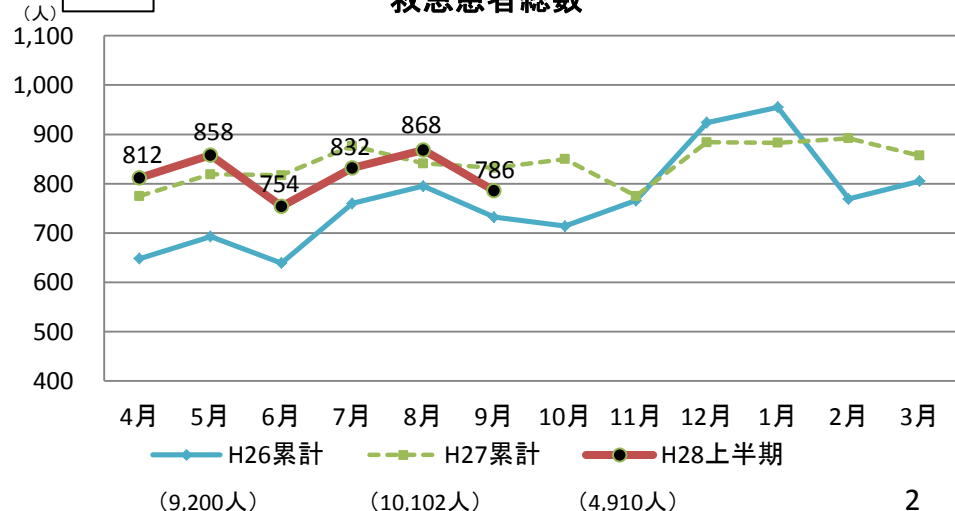


表5

救急患者総数



高齢者の健康の維持・増進と活力の向上を目指す研究

ア トランスレーショナルリサーチの推進 (医療と研究の連携)

- TR情報誌の刊行やセミナーの開催等によるシーズの発掘及び育成
- トランスレーショナルリサーチ上半期新規採択課題
 - ・夜間頻尿に対するローラーを用いたセルフケアの長期効果
 - ・軽度認知機能障害(MCI)から軽度認知症に焦点をあてたプリントトレーニング教材作成の試み等 全5件
- 外部研究資金の獲得
 - ・積極的な論文発表、外部研究資金の獲得

イ 高齢者に特有な疾患と生活機能障害を克服するための研究

- 加齢により神経筋接合部の分子構造が変化することを発見
- 先天性筋ジストロフィー症の一種である筋眼脳病の原因タンパク質の機能を解明

(自然科学系チームの各研究テーマ)

- ◆老化機構研究
分子機構、老化バイオマーカー、プロテオーム
- ◆老化制御研究
健康長寿ゲノム、分子老化制御、生態環境応答
- ◆老化脳神経科学研究
自律神経機能、記憶神経科学、神経生理
- ◆老年病態研究
血管医学、生活習慣病、運動器医学
- ◆老年病理学研究
高齢者がん、神経病理学(ブレインバンク) 等

ウ 活気ある地域社会を支え、長寿を目指す研究

- 高齢者が尊厳を持って在宅生活を継続できる「都市型・認知症ケアモデル」の構築に向け、板橋区高島平団地及びその周辺地域の70歳以上高齢者を対象とする生活実態調査を実施(都委託事業)
- 世代間交流研究やソーシャルキャピタル研究、生涯学習型ボランティア研究など、地域高齢者の社会活動や社会貢献活動を促進するコーディネート・支援システムのモデル開発・評価に向けた取組の推進

(社会科学系チームの各研究テーマ)

- ◆社会参加と地域保健研究
社会参加・社会貢献、老化・虚弱の一次予防
- ◆自立促進と介護予防研究
筋骨格系の老化予防の促進、介護予防の促進、認知症・うつ予防介入
- ◆福祉と生活ケア研究
在宅療養支援、要介護化の要因解明、終末期ケアのあり方 等

エ 先進的な老化研究の展開・老年学研究におけるリーダーシップの発揮

- 水素分子の作用機序の解明や水素水による糖尿病治療効果に係る臨床研究の推進
- 高齢者ブレインバンクによる国内外のブレインバンクネットワークの構築の推進

オ 研究成果・知的財産の活用

- 臨床と研究の両分野が連携できるメリットを活かした、「老年学・老年医学公開講座」において、医療と研究の両面から情報発信(2回開催、計1,496人参加)
- 研究成果の実用化に向けた特許権の新規出願 2件

28年度上半期実績/1人あたり
(速報値)
(27年度上半期)

外部資金獲得件数

222件/2.5件
(190件/2.1件)

外部資金獲得金額

702,694千円/7,808千円
(498,096千円/5,534千円)

科学研究費等獲得件数 (文科省・厚労省等)

128件/1.4件
(116件/1.3件)

受託研究等受入件数

36件/0.4件
(32件/0.4件)

学会・論文発表件数

1,272件/14.1件
(1,229件/13.7件)

特許新規申請数

2件/0.02件
(1件/0.01件)



研究部門 各実績年度推移(速報値)

表6

学会・論文発表件数

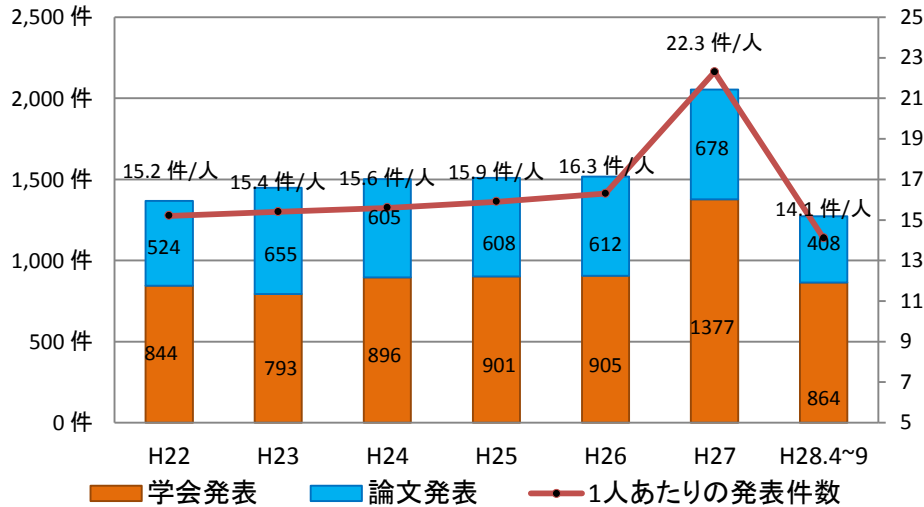


表7

外部資金獲得額

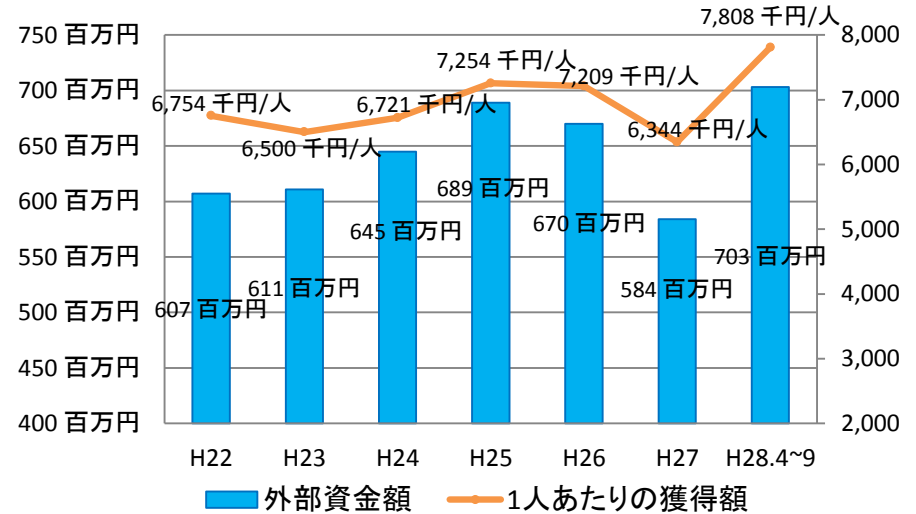


表8

科学研究費等獲得額・件数

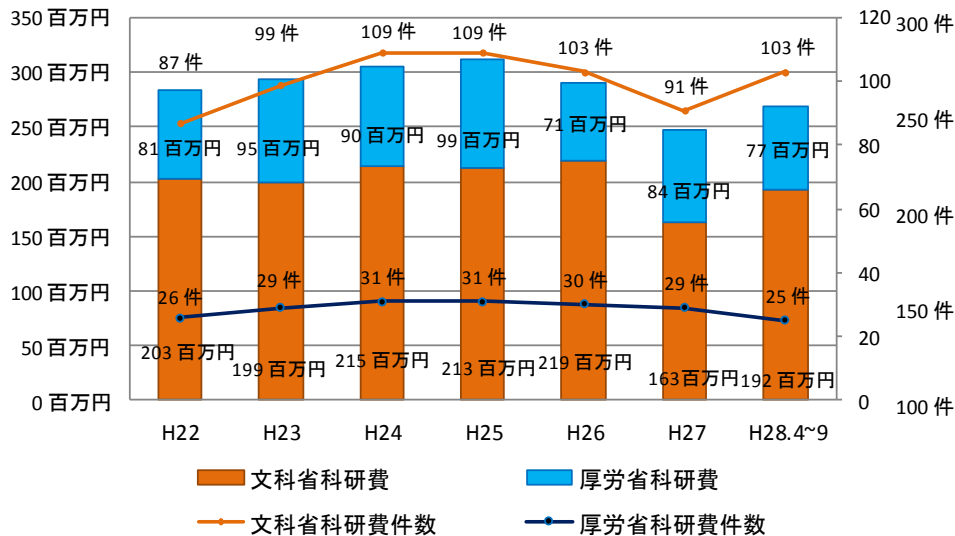


表9

外部資金獲得件数

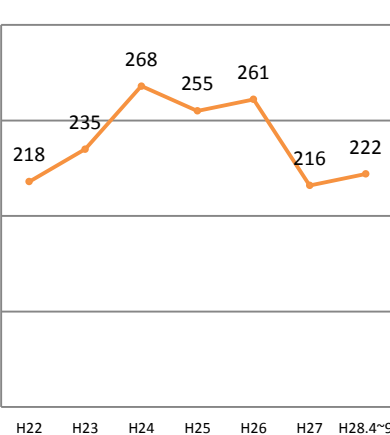
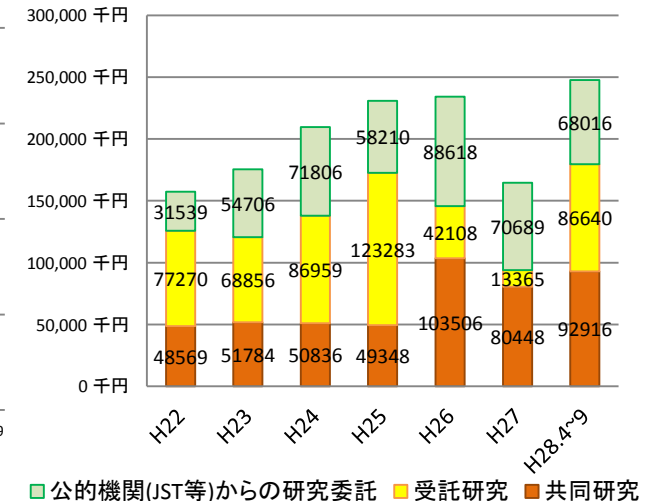


表10

受託研究等の受入金額



平成28年度上半期 業務実績概要(経営部門)

地方独立行政法人としての特性を活かした業務の改善・効率化と経営基盤の強化

ア 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

○センター職員の確保・育成

- ・職級別研修の計画的実施(5月)
- ・学会等の参加支援並びに認定医、専門医、認定看護師の資格取得支援
- ・看護師の定着に向けた検討WGの立ち上げ

○次代を担う医療従事者及び研究者の育成

- ・院内接遇研修への学生ボランティアの受入れ(8月～9月)
- ・臨床研修体制の充実及び強化
- ・臨床研修医や看護師、医療専門職、研究職を目指す学生などの積極的な受入れ及び育成
- ・連携大学院協定に基づく若手研究員の積極的な受入れ及び育成

○地域の医療・介護を支える人材の育成

- ・認知症支援推進センターとして都内全域の医療・介護従事者に対する研修会等の実施【再掲】
- ・東京都認知症疾患医療センターとしての地域連携及び人材育成の推進
認知症疾患医療・介護連携協議会の実施(5月)
東京都看護師等認知症対応力向上研修会の実施(9月)

イ 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化

- ・経営戦略会議や病院運営会議、研究推進会議等におけるセンター業務に関する迅速な意思決定

ウ 適切なセンター運営を行うための体制の強化

- ・経営分析に特化した「医療戦略室」の設置
- ・当センターにおける研究費の適正な執行、運営、管理についてのルールや各種手続きをまとめた「研究費使用等ハンドブック」の更新や研究不正防止研修会の開催
- ・会計監査人監査の実施(6月)
- ・倫理委員会の適切な運営

エ 収入の確保

- ・一部病棟において、認知症ケア加算の算定を開始【再掲】
- ・平均在院日数の短縮と病床利用率の向上
積極的な救急患者の受入れによる新規患者の確保
病床一元管理と入退院支援の強化
- ・外部研究資金の積極的な獲得
科研費公募説明会の開催やベテラン研究員による若手研究者への研究計画調書の作成指導等
大型受託研究の受入

オ コスト管理の体制強化

- ・電力自由化に伴う電気契約の入札実施等による経費削減
- ・診療情報や財務情報等を用いた経営分析の実施
- ・後発医薬品の採用拡大
- ・ベンチマークシステムを活用した診療材料費等の管理
- ・原価計算実施手法の検証と精度の向上

カ センター運営におけるリスク管理

- ・情報セキュリティ・個人情報保護合同研修会の実施
(6月より年度計8回開催予定)
- ・熊本地震への東京都医療救護班の派遣(5月)とその院内報告会の実施(6月)を通じた災害対応ノウハウの共有化
- ・区西北部医療圏災害拠点病院と連携した東京都トリアージ研修会の実施(7月)
- ・事前に訓練の内容を知らされないブラインド訓練へのセンターDMAT職員の参加(8月、内閣府主催)
- ・大規模災害訓練に係る机上訓練の実施(9月)

28年度上半期実績
(速報値)
(27年度上半期)

業収入

6,530百万円
(6,329百万円)

業費用

7,311百万円
(7,057百万円)

業収支比率
(業収入/業費用)

89.3%
(89.7%)

業利益

138百万円
(▲50百万円)

